

「あきらめない！」

少しを、次々と、時間内に

「できるを重ねる」

自信

平成30年11月6日
北九州市立木屋瀬小学校
校長 瀧上 正彦

学習発表会まで1週間！

子どもたちにとって大きな行事である、学習発表会が11月11日（日）に行われます。練習が始まり1週間ですが、すいぶん成長が見られます。少しずつできる演奏や演技を重ねて、大きな演技・演奏ができるまで成長をしているのです。一人一人の「小さなできる」が重なれば、学年全体として「大きなできる」へとつながります。自分のチカラが皆のチカラになるし、皆のチカラが自分のチカラになるのです。こうした大きな目標に向かう体験を重ねて、自信をつけもらいたいと願います。保護者の皆様も子どもたちの成長につながる声かけをお願いいたします。

環境アティヴ ランク 4年 3日(水)

環境ミュージアムや山田緑地の見学を行い、環境を守る大切さ（3R）を学びました。子どもたちは各施設の方からの問いかけに反応が良く、楽しそうに学んでいました。

八幡西区陸上記録会 6年 11日(木)

大会前の毎日、厳しい練習を重ねた6年生が、本城陸上競技場で大きな成果をあげました。応援の声が一番大きく届いていました。

また大会の翌日、「もう1つの陸上記録会」として、選手で出場できなかった仲間の記録会を6年生がしていました。ここでも応援の声が大きく響いていました。感動的でした。



天文学習 4年 16日(火)

児童文化科学館で天文学習が行われました。プラネタリウムや科学館の中の施設で楽しみながら学習しました。

自然教室 5年 18日(木)~19日(金)

頂吉少年自然の家で、ダム周りのウォークラリー、肝試し、川遊び、清掃ボランティアを行いました。入所式や閉所式の子どもの挨拶や態度が素晴らしかったです。

わくわくフェスタ 21日(日)

たくさんのPTAの方の協力のおかげで、たくさんのゲームコーナーや販売などが行われました。豪華な賞品やとても安くお買い得な品物に驚きました。お父さん方手作りの焼きそばもおいしかったです。

スーパーマーケット見学 3年 26日(金)

木屋瀬電停横のサンリブのご協力で働く人々の学習を実地で見学させていただきました。働いている方にたくさんの質問をして学びました。ありがとうございました。



心の劇場 6年 29日(月)

午前中は、3回も木屋瀬小学校に足を運び北九州の地質の指導して下さった学芸員の森先生の案内で、いのちの旅博物館の見学を行い、午後からは、ソレイユホールで劇団四季のミュージカルを「魔法を捨てたマジョリン」の鑑賞しました。

連合音楽会 4年 11月6日(火) 14:00~星ヶ丘小学校

学習発表会より一足早く、4年生が連合音楽会に出場します。素晴らしい演奏を期待しています。



シリーズ 子育て応援 ～校長の独り言～

ウナギのなぞを追って

東京大学・日本大学ウナギ学研究室教授 塚本勝巳氏

4年生の国語の教科書「ウナギのなぞを追って」の著者の塚本先生に直接お話を聞くチャンスを得ました。

広大な太平洋のマリアナ海の海中に口径3メートルくらいのビッグフィッシュと呼ばれる細かな目の網を何往復も船で引いて、5月・6月の新月の夜だけ海中に産卵され、しかもたった1、6日で孵化してしまう卵を採集する。そんな天文学的な奇跡をやったのけた方です。

何十年も追い求めてきたニホンウナギの卵が採集できたときは、塚本先生も初めは全く運のよい出来事だと思っていたのですが、ここだろうと予想した場所と時間で確実にとれるようになったときには、「これは偶然ではない。科学の勝利だ」と思うようになったそうです。

皆さんはどう思われますか？

どこから泳いで来るのか分からないニホンウナギの発祥地を求めて、約2500km離れたマリアナ海に少しずつ近づきながら網を引いていき、稚魚（ブルブトワル）や卵を捕獲することは雲をつかむような話です。

これを子育てに置き換えてみましょう。

まず保護者の皆様は、「こう成長するはずだ」と我が子の成長の可能性を信じていらっしゃるでしょうか。かくいう私もたくさんの教え子がありますが、小学校の頃は落ち着きもなく、将来どうなるかなあと心配していた子どもが、大人になって再び出会い、活躍している姿を見て驚くことがあります。

私は、子どもが小さい頃から、勝手に伸びしろを大人が決めてつけて、可能性を否定するのは大変危険なことだと思います。また、うちの子はダメだとかあきらめる必要もないと思います。大人はいわれた通りにしない子や何度も失敗することを忌み嫌いますが、そうした子ほどたくさんの経験をして、問題にぶつかった時に、蓄えた豊富な経験を活かして乗り越える力をもっているのです。

そう考えると、私たち大人が大切にするのは、当たるかも当たらないかもしれないいろいろなことを、「きっと〇〇になるはずだ」と信じて子どもに働きかけていくことではないでしょうか。こうしたから子どもが立派に育つなんてことはないのです。大人自身も子育ての失敗を恐れず、「いつかはきっと」と信じて、働きかけを繰り返していきましょう。

なかなか難しいことだらけの子育て。雲をつかむような話でも、あきらめず仮説をもって何度も網を投げていけば、きっと求めていたその子の卵が見つかる日がくる。子育てを楽しみながら取り組みましょう！